

2023 年 8 月 7 日

一般社団法人日本音楽療法学会
日野原賞選考委員会

第 3 回日野原賞の受賞者が決定しました

第 3 回日野原賞

≪論文部門≫

受賞者	七原 真紀
受賞対象論文	Correlation of acoustic features of pitch/rhythm/power and perceptual impressions after singing training for people with dysarthria
掲載誌	Acoustical Science and Technology(2022・43 巻・1 号・p.22-31)

≪活動部門≫

受賞団体	滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センターおとさぼ
団体運営者	山本 知香
活動名	大学附属センターにおける障害児者を対象とした音楽療法の拠点形成

2023 年 9 月 3 日（日）午前 9 時 20 分から、第 23 回日本音楽療法学会学術大会（長良川国際会議場）において授賞式が執り行われます。授賞式後の記念講演では、多くの会員に講演を聴いていただければ幸いです。また、受賞記念講演は後日オンデマンドで配信されます。

日野原賞は、日本音楽療法学会（本学会）の創設と発展に貢献された故日野原重明初代理事長を顕彰する学術奨励賞として、2021 年度より創設されました。日野原先生の理念である“keep on going”を継承し、音楽療法の発展に貢献する学術研究や臨床現場での継続的な活動を奨励し、その結果、日本の音楽療法が人々の健康維持・増進に貢献することを目的としております。

受賞の対象は以下の 3 種がありました。

（論文部門）

対象 A：2022 年 1 月～12 月までに、日本音楽療法学会誌に掲載された原著、または事例研究の筆頭著者。

対象 B：2022 年 1 月～12 月までに、国内外の学会誌（第三者による査読のあるもの）に掲載された原著または事例研究の筆頭著者（本学会員に限る）

（活動部門）

対象 C：2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日の期間に、音楽療法の普及・発展に貢献した活動を行った本学会員、または本学会員が運営する組織・団体。

※BおよびCに関しては、自薦、他薦が必要。

結果、本年度は対象A1名、対象B3名、対象C2団体の計4名及び2団体が選考の対象となりました。論文部門の受賞者は、七原真紀会員で、対象となった論文は「Correlation of Acoustic Features of Pitch/Rhythm/Power and Perceptual Impressions after Singing Training for People who have Dysarthria」(Acoustical Science and Technology 2022・43巻・1号・p22—31)でした。

筆者らは、構音障害がある患者(脳血管障害、脊髄小脳変性症、頭部外傷後遺症など)を対象として発声明瞭度の向上のために1年間にわたる発声・歌唱訓練を行いました。この結果、リズムの要素を強調した歌唱訓練が、発声明瞭度の向上につながる事が明らかになりました。また評価者が音楽の訓練を受けているかどうかに関係なく、同等の発声明瞭度の評価をすることが判明しました。

本研究は、①長期間にわたる歌唱訓練を行ったこと、②主観的評価に加えて、客観的な音声指標を用いたこと、③重視すべき訓練ポイント(リズムの要素)を明らかにしたこと、④言語聴覚士のいない介護施設でも施行できることなどが選考委員会において高く評価されました。

活動部門は、滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センターおとさぼ(運営者:山本知香会員)が受賞することとなりました。

おとさぼは障害児者の音楽教育支援に特化した国立大学附属のセンターで、アウトリーチ作業、インリーチ作業、指導者研修会、パイロットプログラムの4事業を軸として活動を展開しております。

本事業は、①公的な施設(国立大学附属)で音楽療法的な視点を活かした活動が行われていること、②4事業がバランス良く展開されていること、③令和4年度に文部科学大臣表彰を受けたこと、④今後の展開が期待できることなどが選考委員会において高く評価されました。

今回の選考は、応募は比較的少数でしたが、いずれも優れた内容のものばかりでした。対象Bの3編は、いずれも国外の雑誌に英語で投稿された論文でした。学会員が神経学や音響学など様々な領域に情報発信していることを改めて確認しました。すべての対象が音楽療法の発展に貢献していることは間違いのないものと思います。次年度も多くの優れた研究の応募を期待しております。

活動でも、地域で中核として活動する施設が育っていることは心強い限りです。

今後も選考対象となった方々の研究や活動が発展・継続することを楽しみにしております。